

令和7年度 学校評価アンケート
学校運営協議会委員からの感想・意見

- ・学校評価アンケートの結果において、質問（相談しやすさ）や質問（いじめ防止）に関する肯定的な回答が相対的にやや低い傾向にある。
学校側からは、年3回の学校生活アンケート（紙面）を通じて児童が困り感を概ね発信できているとの回答があり、学校に寄せられる相談内容は学習面での行き詰まりや発達面の心配が多いとのことなので、児童・保護者が悩みや思いをより円滑に発信できるような環境づくりを、今後も一層推進していただきたいと考える。
- ・相談窓口の周知に加え、設問自体の再検討も必要かもしれない。「悩み事があったら、先生や友達、スクールカウンセラーに相談できますか。（こまったことがあったら、せんせいやスクールカウンセラーにはなしますか。）」という問いに対し、現在相談するような悩みがない児童が消去法で「相談できない」を選択している懸念がある。実態をより正確に把握するため、設問や選択肢の内容について見直すことも必要である。
- ・今後の課題としてあげられた、児童の「内面の表出」を促すため、地域独自の相談窓口を設け、学校とは異なる多角的な視点から子供たちの心に寄り添う体制を整えていきたい。我々委員もその窓口を担い、支援に当たりたいと思う。
「子ども食堂」などの活動を通じ、児童が安心して本音を話せる「居場所」を提供することは、地域の一員として、子供たちのよき受け皿となれると考える。
- ・児童の長所や個性を伸ばすためには、担任教諭のみならず、多くの教職員や地域の大人による多面的な声掛けが不可欠である。「褒められた」「認められた」という実感が、子供たちの確かな成功体験へと繋がると思う。
- ・学校方針の一つでもある「書く力」の育成に向け、ICT端末の活用と手書きによる学習の利点を融合させ、今後もバランスの良い指導を継続されることを期待している。

- ・おやじの会が関連する項目の肯定的回答が微減傾向にある。教職員の皆様には常々ご協力をいただいているが、今後は活動内容の更なる周知に努めるとともに、より効果的な連携の在り方を模索していきたい。
- ・教職員対象の学校評価のアンケート結果も踏まえ、先生方が健やかに教育活動に専念できるよう、メンタルヘルスを含めた勤務環境の保持を考慮してあげていただきたい。